



2005年2月20日

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

週1回発行
お問合せは上記へ

市議会で一般質問

「漁業歴史資料館」に疑問の声が多数

2月15日に市議会の一般質問がおこなわれました。来月には市議会選挙を控えているだけに、傍聴席は満員となりました。

日本共産党市議団の福田明・鈴木やす子の両議員を含め5人が登壇。とくに大きな論戦となったのが「ブルーツーリズム」の一環として大津港に約4億

8千万円かけて建設が予定されている漁業歴史資料館（お船会館）の是非の問題です。

福田明議員は「市長は施政方針のなかで、財源が極度に不足するなか、必要性・緊急性の高い事業を最優先とした予算編成をしたと述べ



「市長報酬の削減率が、助役などと4役横並びでは納得できないという市民の声をどう受け止めるのか」と質問する鈴木やす子議員。

また、東電からの12億円の寄付金についても、「市長が東電との合意で使い道を限定するのではなく、議会や市民と相談して決めるべきである」との発言が日本共産党市議団や



「お船会館に緊急性があるのか」と福田議

他の議員からも出されました。市長の答弁では「公用車の廃止といても市長車だけではない。ほかの課にも公用車はある」「箱物はいけないうが学校も箱物だ」など、揚げ足とりのような発言も目立ちました。

傍聴者からも「市長の答弁は意味不明が多い。もっと

なぜ一般質問の後なのか？

「漁業歴史資料館」についての説明

2月16日に市議会の建設委員会が開催されました。同委員会の審議終了後、市長から「漁業歴史資料館の概略をぜひ説明させていたきたい」との要望があり、報告を受けました。このなかで、日本共産党の福田明議員は「なぜ、議会前に全議員に説明しな

と質問者に対して誠実に答える姿勢が必要」という声が聞かれました。

と市長に迫りました。

また、市長は東電からの12億円の使途のうち、「環境整備の2億円はまだ具体化されていない。環境整備という概念は広いので、ある意味では自由に柔軟に使えるお金だ」と発言。これに対して福田明議員は「であれば、12億円そのものも地域振興に使うという広い概念で自由に使うべきだ」と発言しました。漁業歴史資料館に対しては、前日の一般質問でも何人も議員から批判されただけに、市長は今後は文教・総務の各委員会でも説明したいとしています。

ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木やす子
☎42-2462



市議会議員
福田明
☎43-0468

「北茨城民報」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>